

受賞先のご紹介

1. 産業技術部門 4席

産業技術特別大賞

- 有限会社 山崎ワイナリー 様 (三笠市)

葡萄栽培技術の確立とワインの製造技術の確立

葡萄栽培から醸造・販売までをすべて家族で手掛けるために平成10年(1998)から葡萄栽培を開始。一般農家では日本で初めて醸造免許を取得し平成14年(2002)からワインを販売している。道内初となる樽材質の発酵タンクを導入、野生酵母による自然発酵やワイン液循環方式による管理を行い、地域の特性のある高品質なワインを製造。その技術を活用して産地形成に向けた取組みも進め、ワインの地域活用に努めている。三笠ジオパークとの連携による観光事業にも取組み、ワイナリーは単なる生産現場ではなく、地域の新たなコミュニティの場となる可能性を秘めていることから、地域資源としての一翼も担う。

産業技術特別奨励賞 3席

- 昭和マテリアル株式会社 様 (岩見沢市)

パイルネット工法の開発

昭和50年(1975)8月、石狩川を襲った大洪水の際、河川築堤を盛土するためにパイルネット工法を開発。軟弱地盤に木杭を打ち、杭頭を専用連結材で連結し、土木安定シートを敷設する軟弱地盤対策工法である。河川堤防や道路盛土等の土木構造物、建物基礎や付随する駐車場や外構基礎等に使用されている。樹木を木杭として地中に埋めることによって、実質、大気中の二酸化炭素を地中に固定化する効果もある。セメント等による地盤改良工法と違い、安全性も高い。国、北海道及び民間受注を含め、150件の実績を重ね、高い評価を得ており、近年「二酸化炭素の削減効果」が注目され、「パイルネット工法協会」が設立されている。

- 株式会社 道央メタル 様 (美唄市)

パンチング加工における上反り抑制技術の開発

鋼材穴抜き加工時に発生する外周部逆反りは、鋼材逆押圧作業が必要で、生産性悪化の要因になっていた。「反りなし穴加工」を発案して実用化したものの、令和3年(2021)からは更なる技術の向上を目指して道総研、北大と共同で研究し「高品質板金加工システム」を実用化した。製品・技術の特長は、IOT金型と加工状態推定・補正技術を用い、加工精度を高め、加工品の反りは1m当たり3mm以下に収めること等を目標に開発。前回受賞後に「高

品質板金加工システム」を完成させ、パンチング加工における反り抑制技術を開発した。本技術は「穴加工部品」製造業務に多大な貢献ができる。

● 株式会社 スリービー 様（南幌町）

タモギ茸の2次栽培による「エルゴネチオネイン」の増産化

個人創業以来39年間タモギ茸の栽培に徹し、タモギ茸販売を事業化。平成13年（2001）、タモギ茸から抽出したエキスに免疫力向上効果があることが判明し、商品化してエキス剤の販売を開始した。平成22年頃、新機能成分としてエキス中に「エルゴチオネイン（以下、EGTという）」を含んでいるという研究報告がある。EGTは体内では生成されず、タモギ茸に多く含まれる抗酸化物質であることから、当社注目される。また、茸業界では初めてタモギ茸の2次栽培の事業化に取り組んでいる。2次栽培のタモギ茸のEGT含有量は一次品よりも30%多いことが認められており、エネルギー・資材の使用量削減ができ、環境負荷を低減できる。

2. 文化部門 13席

文化特別大賞

● 夕張美術協会 協会長 小林 ^{かずひろ}和拓 様（夕張市）

絵画芸術の伝承と普及

昭和29年（1954）に当協会を結成、翌年に第1回夕張美術協会公募展を開催。以来、公募展、協会展、回顧展、記念展、そして書道との合同展、会員の個展と展示会を開き、絵画芸術作品鑑賞の機会を数多く作っている。市の破たん後には会員数も減り、発表の場にも支障をきたすようになり、さらに平成24年（2012）から市立美術館が雪害で倒壊したことから以後は市民公民館等に展示した。現在、「りすた」展示ギャラリーで展示会を開催。その他、新春絵画展、個展や勉強会を通じ、全員のチームワークで運営している。地域とのつながりを大切に、市民交流と市民文化祭に率先して参加、現在、70周年記念誌の作成も計画中である。

文化特別奨励賞3席

● 社団法人茶道裏千家淡交会岩見沢支部 支部長 藤原 ^{とうじゅうん}東潤 様（岩見沢市）

茶道の伝承

昭和28年（1953）の設立以来70年以上、千利休の説いた「和敬清寂」の精神で茶道の伝承活動を行っている。学校茶道として市内の高校、中学、幼稚園等へ出向き、茶の湯を子供たちに伝え、お茶の体験を通じて美しい作法やおもてなしの心を学んでもらっている。市民

文化祭等にも参加して四季の移り変わりを感じて豊かな時間を過ごしてもらっている。コロナ禍以降、人と人との関係性が薄れている。この時代だからこそ、「和をもって差別や区別なくお互いを敬い、正直に、慎み深く」一盃（わん）のお茶に向き合っていただき、豊かな心を育むきっかけとなるように広く活動し、茶道の伝承に努めている。

- 岩見沢柳の芽川柳会 会長 岡 嘉彦 様（岩見沢市）

川柳創作の継承と短詩型文学の発展

昭和 41 年（1966）、5 人で第 1 回句会を開催。以来、句会を毎月開催して作品の合評と交流を行っている。1981 年には「川柳 柳の芽」を創刊し、毎月休まず発行し今年 9 月で第 521 号を数える。10 年毎に記念誌を発行し、活動の足跡、作品等を伝えている。受賞後、市民文化祭での発表会、作品展示、道民芸術祭の開催、「文学岩見沢」への投稿、信金ロビー展、道新空知サロン等の郷土文芸欄掲載その他活動は多数。平成 30 年（2018）発行の会長の「男の歩幅」が道川柳連盟文芸賞を受賞。会員による空知管内郷土芸術祭の講師、選者等の活躍、道川柳連盟理事、審査委員輩出その他幅広く活動中。現在は 60 周年記念誌を作成中。

- 混声合唱団 リンデンコール 代表 川村 聖子 様（夕張市）

音楽・合唱活動による地域貢献

昭和 21 年（1946）の発足以来 78 年、混声合唱団として定期演奏会等を通じて市民に感動を与え、文化の発展に貢献してきた。主な活動は、5 年毎の定期演奏会、毎年のミニコンサート、全市音楽発表会への参加である。令和 4 年には新たな施設「夕張市拠点複合施設りすた」で、「音楽フェスティバル de りすた」を開催した。全市音楽発表会は、毎年 10 月に音楽協会所属のリンデンコール、コール・リラ、コール・ポピーの 3 合唱団合同開催で、今年はソプラノ、ティノール等のソロ演奏の他、会場の皆様と「一緒に（歌う）」のコーナーでは会場が一体感に包まれた。再来年創立 80 周年を迎えるため、記念活動などの準備を始める。

文化特別貢献賞 9 席

- 美唄市郷土史研究会 会長 安達 武雄 様（美唄市）

郷土史の調査と研究

昭和 50 年（1975）、24 名の会員で発足。美唄地域の郷土史の研究や調査を行い、歴史・文化の継承と発展を図るとともに歴史と文化を生かした地域の魅力づくりに資することを目的に活動中。郷土史の研究をもとに、毎月 1 回 2 時間の例会を開催、フィールドワークとして毎年数回、現地を訪れて直接歴史に触れ、観察・研究している。受賞後、「炭鉄港」に関する資料の整備に努めた。また、北大構内のクラーク博士の胸像を制作した田嶋硯朗（たじま・せきろう／明治以降 3 時代にわたって活躍した彫刻家）の美唄に残る 3 つの作品の発掘に尽

力。なお、会員においては総合計画審議会委員や文化財保護委員として市政に寄与している。

● 峰延獅子舞保存会 代表 石川 利雄 様 (美唄市)

獅子舞の継承と保存

昭和46年(1971)、富山県の獅子舞を移住先の峰延でも伝承すべく活動中。小・中学生も参加することで、伝統芸能に触れる機会を設け、地域の行事には欠かせない存在となる。後継者の育成に努め、住民同士の交流を深め、郷土愛を育むなど、活力ある地域と人づくりに貢献している。受賞後は、地域の行事を中心に活動し、美唄歌舞裸まつりへの参加協力をはじめ、小学校訪問も行ってきた。ただし、この数年、子どもの減少、会員の高齢化、農業の多様化もあり活動を中止している。活動の復活を願いながら、衣装や道具などを整備、大切に保管している。

● 峰延東傘踊り保存会 会長 矢部 幸夫 様 (美唄市)

郷土芸能の保存

平成2年(1990)、美唄市開庁100年を機に設立。設立時から、子供も大人も一緒になって楽しく踊ることを第一に活動している。峰延小学校の協力で、体育館で定期練習を重ね、各地の保存会との交流と傘踊りの発祥地である鳥取県も訪問し、指導をいただいた。美唄市の成人式においても踊りを披露している。又、閉校してしまったが峰延小学校において、平成3年から4年生の児童が毎年、学芸会や老人ホームの慰問で踊りを披露し、大変に喜ばれた。受賞後、会員数は減ったものの、地域の老人ホームやお祭りで傘踊りを披露して、地域での交流を心がけ、郷土芸能の継承と普及に努めている。

● はなやぎ 花柳 なるすけ 鳴介 様 (美唄市)

日本舞踊の普及発展

昭和30年(1955)、舞踊家を目指して上京。人間国宝花柳流家元2代目花柳壽輔の内弟子となり、同32年に3代目花柳鳴介を襲名。同42年、美唄市で花柳流舞踊道場を開設し、日本舞踊の普及に努めている。イベント実績としては、VIVA逢フェスタNEXT-ONE(11回公演)、やすらぎの舞等11回、舞と花火の共演「桜舞・花火」7回、同64年の札幌雪祭り「雪の踊り」の振付・演出、翌年斜里町「知床ファンタジア・オーロラファンタジー」等。また、道外、海外(イタリア)での公演も実施した。平成16年から延べ20回、伝統文化活性化国民協会の「伝統文化子ども教室」を開催して日本舞踊の普及に努めた

- つきがた樺戸太鼓 会長 渡辺 訓広 様 (月形町)

地域芸能の継承と保存

昭和 47 年 (1972) の発足以来、伝統芸能として地域文化の発展と、青少年の健全育成等のために町内外を問わず活動してきた。現在は小、中学生が中心となり町内イベントを中心に演奏活動を展開している。子供たちの交流や地域とのつながりを継続していくための重要な受け皿であり、さらには太鼓演奏を通じて人々を元気づける団体である。毎年、「つきがた夏まつり」や町民文化祭、福祉施設での慰問演奏等、町内を中心に演奏活動を実施中で、令和 5 年 (2023) には町が主催する芸術鑑賞会において、太鼓プロ演奏者とのコラボ演奏も実現しメンバーの技術向上と地域芸能の継承につながる活動を行っている。

- 夕張太鼓保存会「竜花」 会長 角田 浩晃 様 (夕張市)

太鼓文化の継承と地域貢献

昭和 45 年 (1970)、石炭産業の斜陽化が進み、夕張が暗いムードに包まれていく中、人々の心を奪い立たせるため、そして町を元気づけるために太鼓保存会が結成された。発足から 50 年以上、まちの繁栄を祈願し、人々のために太鼓演奏している。かつて「炭山祭」だった夕張神社祭では各地域をまわり、1 日 10 回以上の演奏もある。市の夏祭りや成人式では毎年勇壮な太鼓演奏を披露している。今後は、これまでの活動を継続しつつ、これまで行けなかった遠方地での公演や修繕できなかった太鼓を直し、演奏活動を継続する。人口減少など、縮小していく夕張にあって、大切な文化の一つとして活動中である。

- 女声コーラス コール・リラ 代表 木村 みき 様 (夕張市)

音楽・合唱活動による地域貢献

昭和 59 年 (1984)、夕張市立清水沢小学校 P T A 活動の一つとして発足。これまで、夕張市等が主催する各種イベント (国際映画祭、「夕張希望の杜」夏祭り、音楽フェスティバル等) に参加している。又、平成 23 年 (2011) 以降は夕張特養老人ホーム清光園への慰問コンサートを開催中。受賞後、コロナ禍で中止となっていた市民音楽の夕べ、夕張全市音楽発表会も昨年から復活し、当会も引き続き参加してコーラスを披露、音楽を通じて地域の方との交流を深めている。「(心に太陽を持って) くちびるに歌を持って」という言葉がある通り、歌を通じて地域の人々に勇気と元気を与えるために活動中である。

- 由仁手話サークル「つぼみ」 会長 大野 辰美 様 (由仁町)

手話の普及活動

サークル発足以来 28 年、町民講座手話教室の開催や子供ボランティア教室、その他町内行事への協力を通じて、手話を町民に着実に浸透させてきた。会長指導のもと個々に手話のス

キルアップを目指して取り組み、町民福祉の向上に寄与するため、町民文化祭等に出演し、「楽しくわかりやすい手話」の普及に努めている。受賞後にはコロナ禍で活動できなかったが、この間も個々の手話技術の研鑽を積み重ねてきた。コロナ禍も落ち着いてきたため町内で開催される各種行事も増加し、令和5年には由仁町文化祭において手話ソングと寸劇を披露、同9月の福祉の集いでは、手話通訳も再開。今後は高齢者施設への訪問も計画している。

- 北海盆唄全国大会実行委員会 実行委員長 伊藤 修身^{おきみ} 様 (三笠市)

北海民謡の保存と普及

炭鉱で唄われた北海盆唄は三笠がルーツであり、北海盆唄を後世に唄い継ぐために、日本民謡協会、北海道民謡連盟、同協会等の支援を受け、北海盆唄全国大会実行委員会が組織され、平成5年(1993)に第1回大会を開催。以来、歌唱基準をつくとともにテープを作成し、希望があれば全国大会優勝者を他市町へ派遣するなど北海盆唄の普及に努めてきた。また、市の一大イベント三笠北海盆踊りでは、大櫓の上で、全国大会優勝者が唄うなど、イベントの一翼を担ってきた。コロナ禍で中止した令和2年からの3年間を除き、毎年、全国大会を開催し、今年で第32回目。地域住民と密着した元気なまちづくりに貢献している。

3. 地域振興部門 (ふるさとづくり部門) 7席

ふるさとづくり特別大賞

- いわみざわ百餅祭り実行委員会 実行委員長 仁志 正樹 様 (岩見沢市)

百餅祭りによる地域文化の活動及び観光推進を通じた地域貢献

昭和58年(1983)、岩見沢市開庁100年・市制施行40年を記念して「いわみざわ百餅祭り」が始まる。大白(5.5トン)に杵(200kg)を吊り上げ餅をつき、その餅をおしるこにして来場者に振る舞い、中心街の賑わいを創出するというもので、開始から41年岩見沢を代表する祭りとして定着している。世界最大級の大白で餅をつき、五穀豊穰、商売繁盛、健康長寿を祈願し、「餅文化」の伝承と地域経済及び中心市街地の活性化に貢献している。また、委員は、岩見沢市、北海道、陸上自衛隊などの公的機関をはじめ、商店街や青年団体等、多様な主体で構成されている。

ふるさとづくり特別奨励賞3席

- 三笠北海盆おどり実行委員会 実行委員長 後藤 寿^{ひさし} 様 (三笠市)

北海盆おどり開催による地域文化の活動を通じた地域貢献

三笠市は「北海盆唄発祥の地」で、この文化を後世に残すため、平成13年(2001)に700万円を投じ、高さ10.5mのやぐらを設置して翌年8月、「第1回三笠北海盆踊り」を開催した。途中コロナ禍のため中止があったものの、絶やさず毎年開催している。三笠市を故郷にもつ多くの人は、この時期に帰省し、盆踊りを楽しんでいる。炭坑閉山により人口減少問題が顕在化し、炭鉱関連施設も取り壊され、三笠市の昔の面影は失われたが、北海盆踊りにより、当時の活気を思い出させ、地域に北海盆踊りを残し、後世に伝える事で地域に貢献している。

- 栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会 実行委員長 高橋 慎^{まこと} 様 (栗山町)

ハサンベツ地区の里山環境の維持を通じた地域貢献

平成13年(2001)7月、ハサンベツ地区が離農によって里山環境が失われることを防ぐため自然活動団体が集結し、「栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会」を発足した。生物生育環境づくりを含めた自然環境の「再生」「保存」を住民運動として実現させ、農村環境づくりのモデル形成を果たし栗山町とも連携している。事業活動は①小川の造成、川や池の生き物観察②ヘイケボタルの鑑賞会、宿泊学習③里山の環境学習、水田とトンボの暮らし観察④田畑造成と食教育(稲作、そば、菜種油)等、多岐に亘っている。ハサンベツ地区の里山環境を次世代へ継承するため、住民参加の環境再生・保全・教育活動を通し、地域に貢献している。

- 長沼町商工会夕やけ市実行委員会 実行委員長 小笠原 聡 様 (長沼町)

夕やけ市開催による観光推進等の活動を通じた地域貢献

平成8年(1996)から毎年5月~9月の第4土曜日、地元商店主が中心となって、長沼商店街を会場にして縁日イベントを開催するため、夕やけ市実行委員会が発足された。「いつもの街並みが縁日に」のコンセプトのもと参加店は日常とは違う商品を扱う等、趣向を凝らして企画され、28年間に渡り、延べ128回開催されている。(令和2年から5年はコロナ禍で休止)今年から再開し、6,7,9月の年3回の開催へ変更となる。イベント開催を通じて中心市街地の活性化と町内商工業の発展、町内外に向けた長沼町商工業者の魅力を発信する等、活動を通して地域に貢献している。

ふるさとづくり特別貢献賞3席

- びばい歌舞裸まつり^{かぶら}実行委員会 実行委員長 岸山 一郎 様 (美唄市)

びばい歌舞裸まつりの開催による観光推進等の活動を通じた地域貢献

昭和29年(1954)7月の第1回「商工まつり」を起源とし、以降は主催団体及び名称変更の変遷を経て、昭和63年(1988)2月「美唄観光物産協会」が設立され、その傘下に「びばい歌舞裸まつり実行委員会」が発足した。そこから夏まつりに対する検討が続き、平成6年

(1994) 8月から「歌」うた、「舞」おどり、「裸」みこしを表現した現在の「びばい歌舞裸まつり」の形となり、30年が経過している。多彩な催しが企画され、美唄市の夏のイベントとして定着している。美唄市内外の観客を呼び込み、地域の観光並びに経済効果をもたらし、地域に貢献している。

- 由仁町夏まつり実行委員会 実行委員長 窪田 裕司 様 (由仁町)
(旧称～由仁町百足まつり実行委員会)

由仁町夏まつり及びメイン競技である「百足競争」を通じた地域貢献

昭和50年(1975)8月、由仁町青年団体協議会が主体となり、地域の親睦を深めるため「百足まつり」が開催された。その後、「由仁町夏まつり実行委員会」に引継がれ、「百足競争」は祭りの中で継続されてきた。活動は、同年8月を第1回とし、今年まで延べ47回に亘って開催され、毎年、コース設定や競技人数に加え、参加しやすさと親しみのある方法を検討し、多くのチームが参加している。特に、地元中学校の運動会で百足競争が取り入れられる町民や団体をも巻き込んでいる。由仁町夏まつり事業の運営は豊かな町民生活に寄与しており、「百足競争」を通じ町内外の参加者と交流を広げる等、その活動を通じて地域に貢献している。

- ユウパリコザクラの会 代表 藤井 純一 様 (夕張市)

夕張岳の高山植物保護への取組活動を通じた地域貢献

平成元年(1989)4月、スキー場開発計画が浮上したため、夕張岳の保護活動推進等及び夕張岳全体をパトロール活動するため、計画に反対の市民によって発足。現在、国や道から委託されてパトロール、保護指定種巡視等、活動範囲を広げている。会員は、夕張市民、道内外の登山愛好家、植物の愛好家等で構成。事業活動は、①夕張岳の森林及び保護指定種のパトロール等、②市営夕張岳のヒュッテ維持管理、③夕張岳を紹介する観光説明看板の設置、④自然と文化を学ぶ市民講座の開催、⑤会報発行等、多岐に亘っている。夕張岳の保護活動推進と夕張岳の素晴らしさを後世に伝えるための活動を行い、地域に貢献している。

以上